

9-7		主題	地域での会食事業の意義と取り組み	
地域との交流		副題	「はるみ★テラス」にいらっしゃいませんか？ ～であい・ふれあい・かたりあう食堂～	
独居高齢者を支える				
研究期間	6ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム マイホームはるみ	
発表者：渡邊ちひろ（わたなべ ちひろ）			アドバイザー：松本沙織（まつもと さおり）	
共同研究者：清水香菜、山崎洋子、赤荻佐和				
電 話	03-3531-7635	メール	harumi@san-ikukai.or.jp	
FAX	03-3531-7625	URL	http://www.san-ikukai.or.jp	

今回発表の事業所やサービスの紹介	1991 年開設の中央区で初めての特別養護老人ホームである。特別養護老人ホームの他、短期入所生活介護、高齢者在宅サービスセンター、デイルーム、24 時間巡回型訪問介護、夜間対応型訪問介護、高齢者あんしんコール事業、地域見守りネットワークを展開している。地域の自主グループの活動場所として施設内を開放する等地域との交流は盛んである。
------------------	---

《研究前の状況と課題》 2004 年、毎日面会に来ていた 80 歳代のご家族（夫）へ食事申込を進め、食事提供が始まったことが最初であった。当初 1 人であった食事提供が 2 名に増えたがあくまで入所者のご家族が対象であった。その後地域包括支援センターから近隣住民受け入れについて相談が入り、施設内で検討のうえ何名かの受け入れをしてきた。地域包括支援センターからの問い合わせに対して対応していた状況であり広報活動は行っておらず、民生委員や介護相談員等一部の方のみが知っているサービスであった。 2010 年度自主事業として区民への広報活動を行うことについて行政の了解が得られ活動を開始。配食サービスや食事会等すでに区民に根付いている食事サービスとの差別化や高齢者施設としてどのような役割を担えるのが課題として挙がった。	《研究の目標と期待する成果》 新たに始めるサービスであったが、予算があるわけではなく現行の人員配置の中で行うことが決まっていた。すでに区民に根付いている食事サービスとの差別化と高齢者施設として地域に還元できる事は何かを考え「独居・介護予防・外出の機会確保・他者との交流・施設を知ってもらうこと」を目的としサービスの枠組みを決めていき、 ①施設の近隣の独居高齢者を対象に閉じこもり予防、栄養確保、様々な人との出会いの場の提供 ②施設の専門性を活かした講座や講習の開催 ③地域の方に施設を知ってもらいボランティア活動等につなげるという目的を掲げた。昼食と夕食を提供、それぞれ 15 名の定員とした。
---	--

《具体的な取り組みの内容》

2010 年 4 月

管理栄養士、特養介護員、特養相談員、サービスセンター相談員、地域包括職員で構成されたプロジェクトが発足。チラシやポスターを作成し近隣の敬老館や保健センター、区役所、地域包括支援センターへ配布したり民生委員や自治会長へチラシ持参で説明を行った。施設内のスペースを貸し出している自主グループへも事業内容の説明を行い利用者、ボランティアの獲得に向けていった。

2010 年 5 月

はるみテラス利用希望者に向けて食事内容と利用方法について知ってもらうため試食会を 2 回開催。試食会では、実際の利用時同様に食事の受け渡しを体験していただき、アンケートを実施おおむね良好の結果であったが、施設利用者と同じメニュー、分量であったため味の薄さや量の少なさへの意見も見られた。

2010 年 6 月はるみテラスオープン

2010 年 8 月

はるみテラスの登録者同士の交流と新規登録者の獲得のため試食会と栄養士による栄養講座の開催を実施。

2010 年 9 月

中央区社会福祉協議会の中のたすけあい家事サポート会報誌へ記事が掲載され 200 名の会員に配布された。

《取り組みの結果と評価》

5 月の試食会開催後 5 名の方の登録があった。8 月の試食会には 7 名参加、栄養講座には 15 名の参加があり、1 名の新規登録があった。栄養講座は「夏バテ対策」として食事の面からの話であったが、『知らないことが学べて良かった、独居なので人に合うのが楽しみです』との意見が聞かれた。独居の方にとって外出するきっかけや他者との触れ合いの場になったようである。9 月に配布した社協の会報誌を見て 3 名の新規登録があった。

事業開始当初は 7 名から始まったが 2010 年 11 月現在 10 名が登録するまでになった。

《まとめ》

提供する食事が施設利用者と同じものであるため「量が少ない、味気ない」との意見や安いお弁当や外食店の流行により「値段が高い」との意見も聞かれている。利用方法についても事前申し込みであるため手間がかかる、利用しづらいとの声もある。利用方法の見直しや献立の工夫等が必要となっている。現在の利用者が施設内のアクティビティへ参加する機会も増えてきており、少しずつ施設と地域の新たな関係ができ始めている。今後の施設サービスを考えていくうえで重要なヒントやキーワードを持っている地域の方とより積極的につながっていききたい。

《提案と発信》

配食サービスの提供とは逆に施設に来てもらうことで、これまで施設を利用したことのない、知らないという地域の方へ知ってもらえることは大きな財産になると思います。地域にある高齢者施設として利用者だけではなく、共に地域に暮らす者として、還元できることを提供していく責任を果たしていきたい。

【メモ欄】